

Original article

**Naegle forceps delivery and association between morbidity and the number of forceps traction applications: a retrospective study**

**同一術者によるネーゲリ鉗子分娩の実際, ならびに牽引回数を含めた因子と転帰との関連:**

**87 例の後方視的研究**

松本直樹, 竹中俊文, 池田申之, 矢崎聡, 佐藤雄一

**日本語要旨**

【目的】 鉗子分娩 (FD) には吸引分娩に比べ成功率が高い, 児の合併症が少ない, 産道損傷が多いという特性がある。筆頭著者は FD の優位点を重視して第一選択の急速遂娩法としている。ネーゲリ鉗子を主に用い低在横定位を含む回旋異常の場合にも使用する。娩出までに複数回の牽引を要することもある。本研究の目的は筆頭著者が行ったネーゲリ FD の実際と転帰を示すこと, 牽引回数を含めた因子と転帰との関連を示すことである。

【方法】 FD の適応は日本産科婦人科学会の示すガイドラインに従った。牽引開始の児頭下降度はステーション+2 以上, 鉗子は骨盤装着, 牽引はゆっくり優しく行うこと原則とした。過去 2 年間に筆頭著者がネーゲリ FD を実施した 87 例を研究対象とした。牽引回数を含めた因子および転帰 (FD の成功, 短期的な有害事象) を後方視的に調査した。各因子と転帰との関連, 各因子と牽引回数との関連を検証した。統計手法は単変量解析を用いた。

【結果】 FD の適応は分娩停止 59%, 胎児機能不全 38%, 妊娠高血圧 3%。牽引回数は 1 回 65%, 2 回 25%, 3 回以上 10%。FD は全例で成功した。重大な母体・新生児の有害事象はなかった。新生児顔面損傷は回旋異常, 牽引回数の増加, 母体合併症ありで多くみられ, 臍帯動脈血アシデミアは胎児機能不全の適応で多くみられた。牽引 2 回以上のオッズ比は回旋異常 5.5, 誘発促進 3.3, 児頭下降度  $\leq +2$  2.9, 牽引 3 回以上のオッズ比は回旋異常 20 であった。

【結論】 本研究で示した手続きによるネーゲリ FD は安全かつ成功率が高い器械分娩法であるが, 特に回旋異常例などで複数回の牽引を要することもある。回旋異常と牽引回数の増加は重大な新生児有害事象につながり得るので慎重な実施が必要である。

*Original article*

**Clinical practice and short-term efficacy of 2.45-GHz microwave endometrial ablation  
to treat menorrhagia**

**過多月経に対するマイクロ波子宮内膜焼灼術の実践と短期的治療効果**

松本直樹, 池田申之, 竹中俊文, 矢崎聡, 佐藤雄一

**日本語要約**

【目的】過多月経に対するマイクロ波子宮内膜焼灼術（MEA）の実践と短期的治療効果を検証し、さらに治療転帰を予測し得る背景因子を探索した。

【方法】MEA を行った全 22 例を研究対象とした。治療効果を検証するための変数は、客観的な評価に基づくものと患者アンケートによる主観的な評価に基づくものに分けた。患者アンケートは治療後（MEA 後約 6 か月の時点）に行い、治療前（初診時から MEA 施術まで）と治療後の状態を同時に回答させた。回答方法には 0 から 10 までの visual analog scale (VAS) を用いた。治療転帰を治療後に判定し、貧血なし・過多月経改善・ホルモン剤治療不要の全てを満たす状態が得られた場合を著効、前 2 項目を満たすがホルモン剤治療を必要とした場合を有効、有効に満たない場合を無効とした。治療前と治療後の各変数を比較し治療効果を検証した。さらに著効群と非著効群の背景因子を比較した。

【結果】患者背景に関して、年齢 47 歳（中央値, 以下同様）、子宮筋腫 68%, 子宮腺筋症 32%, 初診時ヘモグロビン値 8.6 g/dL。術後疼痛 VAS スコア 1.0 ポイント, 手術満足度 8.1 ポイント。ヘモグロビン値, 経血量, 月経期間, 月経痛, 帯下過多, 体調全般が術後改善した。治療転帰は有効 95%, 著効 84%, 無効 5%であった。著効群では非著効群より子宮体部腔長が短かった。

【結論】MEA を安全に実践した。短期的治療効果から判定した有効率は 95%と高かった。子宮体部腔長が短いことが著効の転帰と関連していた。